

Japan MIC Summit 2012 レポート

2012年4月23日

日本マイクロソフト株式会社 品川本社

日本マイクロソフトでは、全国の自治体と共に、独創的なアイデアを持つ IT 開発企業、教育機関、グローバルビジネスに挑戦する個人及び企業や組織に対する支援活動を展開しています。その支援活動の核となるのが、MIC(マイクロソフト イノベーションセンター)であり、マイクロソフトが保有する技術/製品開発における様々なリソースの提供、日本における技術革新の推進、技術者の支援、人材育成などを通して、IT 産業の発展に貢献するために活動しています。

その1年の活動を総括する「Japan MIC Summit 2012」が、4月23日(月)、日本マイクロソフト 品川本社において開催されました。今回は4団体(札幌、旭川、東京大手町、岐阜)が集まり、ワークショップ形式で行われた同会では、各地域から特色ある活動が報告されました。

Japan MIC Summit 2012 開催の趣旨と目的

MIC のミッションは、マイクロソフトの企業ミッション「世界中のすべての人々とビジネスの持つ可能性を、最大限に引き出すための支援をすること」に沿った企業市民活動の一環です。活動はワールドワイドで行われ、各国、各地域の状況に合わせた取り組みが推進されています。活動の柱の一つは、UP - デジタル インクルージョンの推進、つまりデジタル格差の解消です。具体的には、次世代を担う人材育成支援、地域経済の活性化支援、そして障害者、女性の社会参画へのチャレンジ支援など。マイクロソフトは、この企業市民活動に協働していただける企業、各種団体や機関、個人の皆様に、MIC のファシリティ、ハードウェア、ソフトウェア、OS 利用環境をご提供し、その活動をサポートしています。Japan MIC Summit 2012 は、各地域から積極的に活動に取り組む関係者、そして日本マイクロソフトの社員が集結。積極的なディスカッションを通じて、互いに刺激し合い、新たな方向性に向かって活動を広める場となりました。



各地域の活動報告

各地域の参加者による活動報告発表は、15分間。それぞれ特色のある活動内容に、各関係者は真剣な表情で聞き入っていました。

■大手町イノベーションセンター 活動実績報告 (日本マイクロソフト株式会社 技術統括室/イノベーションセンター 本部長 田丸 健三郎氏)



大手町イノベーションセンターがご提供できるサービスの一つ、「マイクロソフト テクノロジー ライセンス サービス」を紹介。画像処理をはじめとするアルゴリズムのライセンス、即活用が可能なコンポーネントのライセンス提供プログラムなど、マイクロソフトの知

財を、大企業だけでなく中小企業、ベンチャー企業に提供している点をアピール。これら最新の技術を活用いただくことで、独創的なアイデア実現の時間短縮、コスト圧縮などのメリットを得られることを強調。一つのサービス例として、デジタル写真から漫画的な似顔絵を作成できるアルゴリズム技術が紹介されました。

■岐阜イノベーションセンター 活動実績報告 (IAMAS 情報科学芸術大学院大学 教授 吉田 茂樹様)

中京製造業エリアの岐阜イノベーションセンターとして、とくに地域のもの作り企業の現場の方々の声に耳を傾け、IT 支援を続けています。平成 23 年度に、延べ 100 回、県内企業の関係者や学生を対象に、研修やセミナーを開催。延べ 1,200 名の方々に受講して



いただきました。今後の取り組みとしては、IT ユーザー系企業との連携を強化し、引き続きもの作り現場に、より広い視点で IT 活用方法を提示し、最新技術を積極的に紹介してまいります。魅力ある取り組みで、より多くの企業に参加してもらうため、「自転車」作りをテーマに、IT の力で新しいもの作り手法を模索するプロジェクトを展開する予定です。今後注力していくべきテクノロジーは、Windows Azure をはじめとするクラウド関連技術や、Windows Phone 7 や Windows 8 といったクライアントデバイス関連技術などです。

■札幌イノベーションセンター 活動実績報告 (NPO 法人 UNISON 札幌市 IT 復興普及推進協議会 理事 中島 弘幸様)



今年で 5 年目を迎える札幌イノベーションセンターは、地場 IT 企業の活性化を目的に、10 年後に IT 技術者 3 万人、IT 企業数 600 社、売上高 1 兆円を目標に掲げ、人材育成、雇用創出の事業を推進しています。平成 23 年度の取り組みとしては、31 講座を開催し、延べ

910 名の方々に参加いただきました。代表的なセミナーは、企画提案型営業力強化の研修、クラウドセミナー、Windows Phone 開発者向けセミナー及びワークショップなどです。また、デジタル技術によって我々の視覚や聴覚に有用な情報を付加する、スマートフォンの AR(Augmented Reality と略される「拡張現実」技術) を利用した実証検証環境を提供。自分の周りのスポット情報を把握する「Green AR HOKKAIDO」や「くちコミュニケーション交流サイト「LOHABUU!!」などに活用されました。平成 24 年度は、引き続きセミナー開催、仮想環境による実証検証環境の提供に力を入れ、Kinect を使った札幌公共サインエージのコンテンツ制作などを支援していきたいと考えています。

■旭川イノベーションセンター活動実績報告（一般財団法人 旭川産業創造プラザ 企業支援グループ 主査 伊藤 誠之様）

北海道には 700 ～ 800 社の IT 企業がありますが、その 8 割が札幌エリアに集中、残り 2 割がその他に分散している状況です。道内地方都市としては産官学が連携して、IT 人材育成、新ビジネスの創出、IT による地域貢献の活性化が急務となっています。平成 23 年度



の取り組みとしては、人材育成において技術者を対象にしたセミナー開催に力点を置き、新ビジネスの創出においては、金融関連プログラム、不動産関連プログラムの共同開発を支援させていただきました。地域貢献の大きな動きとしては、16 歳以下の中学生、高校生を対象にした U16 プログラミングコンテストを開催。大いに盛り上がりました。今後の取り組みでは、域内に道北圏で初めて設置されたデータセンターができたことを背景に、これをプラットフォームにしたソフトウェア開発スキルに重点を置いた人材開発に力を入れてまいります。

特別プログラム セッションでは、Windows 8 の最新情報を世界に先駆けて公開



各イノベーションセンターの活動実績報告に続き、大手町イノベーションセンターと技術統括室を兼任する田丸 健三郎氏による「文字コードと異体字とユニコード IVS」と題したセッションが開催されました。文字情報システムにおいて日本語処理がどのようになされてきたかの歴史についての詳説、行政システムの高度利用を左右する日本語処理、そして Windows 8 に期待される究極の日本語処理機能に及ぶ解説に、参加者の皆様の高い関心が寄せられました。

Japan MIC Summit 2012 を終え、見えてきた MIC が目指すべき方向

今回の MIC Summit 2012 における活動実績報告では、地域経済の活性化支援、人材育成支援に地域それぞれの特徴が表れていました。それは、参加者の皆様が、各地域の現状が抱える課題、そして潜在する可能性の両面をしっかりと把握、理解しながら、各支援活動に取り組んでいることを表しています。日本は世界的にみても、IT 普及やインフラ整備が進んでいます。しかし地域の特徴や特性に着目すると、まだ IT の恩恵が十分に行き渡っていないとは言えない状況が見えてきます。MIC が、新しい社会的活力及び経済的活力の創造を支援する上で、地域それぞれが抱える問題や課題、そして可能性を見極める皆様の力は、まさに原動力であり、企業市民活動の明日を開く力であると確信しています。